

## 会 議 録

1. 日時	令和3年9月27日(月) 19:00～20:40				
2. 会場	入広瀬公民館 3階 多目的ホール				
3. 出席者 (敬称略)	No.	組織名	役職	氏名	出欠
	1	入広瀬小学校PTA	会長	梅井 雅行	○
	2	すもんこども園保護者会	役員	浅井 菜美子	○
	3	芋鞘連合自治会	区長会長	浅井 作松	欠
	4	入広瀬コミュニティ協議会	会長	梶沢 一彦	○
	5	学校評議員	評議員	櫻井 伸一	○
	6	学校評議員	評議員	浅井 宏一	○
	7	学校評議員	評議員	村山 あき子	○
	8	学校評議員	評議員	穴沢 勝弘	○
	9	教育委員会	教育長	樋口 健一	○
		(オブザーバ)			
		入広瀬小学校	校長	川瀬 由美子	○
		すもんこども園	園長	大桃 好子	○
		(事務局)			
		教育委員会	事務局長	吉澤 国明	○
	教育委員会	学校教育課長	森山 丈順	○	
	教育委員会	学事係長	須佐 光行	○	
4. 資料	<p>会議次第</p> <p>入広瀬小学校検討委員会委員名簿</p> <p>魚沼市入広瀬小学校検討委員会設置要綱(案)</p> <p>入広瀬小学校児童数推移</p> <p>県の人事異動基準(令和2年度版)</p> <p>令和3年度魚沼市立小学校児童数</p> <p>入広瀬小学校についての説明会の状況(総務文教委員会資料)</p> <p>存続した場合のメリット・デメリット</p> <p>統合した場合のメリット・デメリット</p> <p>入広瀬小学校検討委員会会議日程調整用紙</p> <p>入広瀬小学校の今後についての意見</p> <p>公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き(文部科学省)</p>				
5. 会議概要	<p>開 会</p> <p>1 教育長あいさつ</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 委員長の選出</p> <p>4 委員長あいさつ</p> <p>5 経過報告</p> <p>(1) 入広瀬小学校児童数の推移について</p>				

	<p>(2) これまでの取り組みについて</p> <p>6 意見交換</p> <p>(1) 存続・統合のメリット・デメリットについて</p> <p>(2) 今後の進め方について</p> <p>(3) その他</p> <p>7 その他</p> <p>閉 会</p>
6. 結果	<p>会議の結果以下のとおり決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討委員会設置要綱（案）に沿って会議を進行することとした。</li> <li>・ 委員長に梅井雅行氏、副委員長に栢沢一彦氏を選出した。</li> <li>・ 会議は公開し、傍聴を許可することとした。</li> </ul>

## ■ 議事詳細

議 事 内 容	
<p><b>【午後 7 時 00 分開会】</b></p> <p>(事務局) 会議に先立ちまして皆様に説明がございます。この委員会の要綱につきましては作成中の段階にありますので、本日は会議の要綱案という形で配布させていただいております。内容をご確認いただき、疑義がなければ本日はこの要綱案に沿って委員会を進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員) 第 4 条の任期について、おおよその目安を示していただきたい。</p> <p>(局長) 任期については、本委員会が答申を出す時期を目途としたいと考えております。先日開催した地域への説明会の際には令和 4 年度の予算編成時期までに方向性を出したいということで、今年の 11 月から 12 月頃になると説明させていただきました。</p> <p>(事務局) 他にございませんか。</p> <p style="text-align: center;">(「はい」の声)</p> <p>(事務局) なお、議事録をまとめる必要がありますので、これからの会議については録音をさせていただきますので、よろしくお願いします。</p> <p><b>開 会</b></p> <p>(事務局) 定刻となりましたので、ただいまから入広瀬小学校検討委員会を開会いたします。このたびは、皆様から本委員会の委員をお引き受けいただき大変ありがとうございます。初めての会議でありますので、お手元の会議資料の次第の 4、委員長の選出までを学校教育課の須佐が進行役として務めさせていただきます。よろしくお願いします。</p> <p><b>1 教育長あいさつ</b></p> <p>(事務局) 日程の 1、教育長あいさつ。教育長お願いします。</p> <p>(教育長) こんばんは。4 月から教育長を務めております樋口健一と申します。小出生まれで一昨年まで小出小学校で校長を務めておりました。以前には広神中学校の校長もしておりました。地元勤務はその 2 校であります。こういう立場になり割と早い時期から入広瀬小学校の校長、市議会の浅井議員などから予想以上に人口減少が進んでいるので、入広瀬小学校の今後について是非検討をいただきたいとの声をいただいております。それを受けて保護者の意見をお聞きしたり、コミ協や自治会の皆さんの意見をお聞きしたりしてきました。今回正式に検討委員会ということで発足をして、具体的に</p>	

どうしていくのかを検討し、皆さんの知恵を集めていく会議ということで設置させていただきました。大変重い問題ですが、避けて通れませんし、何より子どもたちの教育環境を整えていくことが第一であります。それぞれの立場の委員の皆さんから率直な意見をいただき、合意を形成できればと願っております。教育委員会としては現在、こうしたいという方針はありません。検討委員会の結果については、その結果に沿った形でできる限りの支援をしていかなければと思っています。ぜひ皆さんから活発に意見を出していただきながら検討を進めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 自己紹介

(事務局) 続きまして、委員、オブザーバー、事務局について、自己紹介をお願いいたします。名簿の上の方から順番にお願いします。

(名簿順に自己紹介・・・内容省略)

## 3 委員長選出

(事務局) つづきまして日程の第3、委員長の選出に入ります。委員長の選出につきましては要綱では委員の互選となっております。いかが取り計らったらよろしいでしょうか。

(特に意見なし)

(事務局) 時間の都合もありますし、事務局の腹案がありますのでそれでよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

(事務局) それでは委員長に梅井雅行さんからお願いしたいと思います。梅井さんは今年度のPTA会長であり、入広瀬小学校の課題について、当事者として最もご心配される立場と言えるかと思えます。どうか、よろしく願いいたします。

(事務局) 次に副委員長ですが椋沢一彦さんよりお願いしたいと思います。椋沢さんはコミュニティ協議会の会長さんとして教育分野についても積極的に活動されています。このお二方にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(「はい」の声)

(事務局) それでは、委員長、副委員長のお二方、前の方の席へ移動をお願いします。

## 4 委員長あいさつ

(事務局) 日程の第4、委員長あいさつに移ります。委員長、副委員長からそれぞれあいさつをお願いいたします。

(委員長) 委員長に就任しました入広瀬小学校PTA会長の梅井と申します。今年度PTA会長を引き受けるにあたり、こういった話がここ1、2年進んでいないことに対して、このままで良いのかという思いがありました。今日を機にどうすべきか、どうあるべきか、皆さんと議論の中で子どもたちにとっても、地域にとっても良い方向が見いだせればと思っています。

(副委員長) 椋沢です。個人的には教育は地域の大事な宝物であり、宝物を守っていこうという気持ちでいっぱいです。ただ、ここまで人口減少が進んでしまうと守り切れません。子どもの目線からするとこの地域に縛り付けるということが本当に良いことなのかどうか。15年ほど前の時点であれば地域の宝を地域で育てようと声を大にしていたはずですが、せめて今の6年生が入学したくらいの時期であればまだ、その気があったかもしれませんが、ここまで来てしまうとトーンが落ちてしまいます。多くの方々の意見を参考に私自身も勉強させていただきたいと思えます。

## 5 経過報告

(事務局) 第5の経過報告に入ります。これ以降6の意見交換までは委員長の進行により会議を進めていただきたいと思います。梅井委員長よろしくお願ひいたします。

(委員長) それでは、5の経過報告からお願いします。説明については事務局の方からお願いします。なお、(1)と(2)は関連がありますので、引き続いて説明をお願いします。

#### **(1) 入広瀬小学校児童数の推移について**

(課長) (資料に基づき説明)

#### **(2) これまでの取り組みについて**

(課長) (資料に基づき説明)

### **6 意見交換**

#### **(1) 存続・統合のメリット・デメリットについて**

(委員長) ただいまの報告をうけまして、ご質問はありませんでしょうか。

(副委員長) 3年前に魚沼北中学校が統合し、これまでに卒業生を2回送り出したところです。統合によるデメリットについて教育委員会の方で何か感じていることはありますか。

(局長) 地域の皆さんからすると学校は地域の学びの核であり、また象徴である側面があり、それが失われたという思いがあったのではという印象です。その一方で直接、生徒本人に聞いたわけではありませんが、統合によるメリットについては資料にかかっているとおりだったのではないかと想像しております。ただ、魚沼北中の統合については、統合後の生徒数が適正規模に足りていない部分があり、中学生については部活動が今、問題になっているというところです。

(副委員長) 小学校長さんから存続した場合のメリット・デメリットについて、ここにかかっているようなことがあるとか、やりようによっては改善の仕方があるとか、その辺をきかせてください。

(校長) 学校運営をしていて良いと思う点、心配な点についてお話ししたいと思います。良い点はひとり一人に目が行き届き配慮ができること、それから人数が少ないので子どもたちはいろいろな役をしなくてはなりません。人数が多い学校ですと役が固定化しますが、人数が少ないと多様な経験ができることがメリットとしてあげられると思います。また個別にしっかり目が届き、その子に最適な教育をしてあげられるということで個人的には小規模校は良いと感じているところです。心配な点については、各学年に何人かはいたほうが良いと思います。低学年については先輩、年の近い中学年の姿を見てこうなっていくんだなというイメージがつかめます。また高学年は低学年がいることによりリーダーとしての役割を發揮していかなくてはいけない。責任感やリーダー性の育成ができます。ただ、中学年は通常は低学年の面倒を見て高学年の姿を参考に高学年へのイメージをつかみ成長して行けるのですが、今、中学年が全くいない状況です。高学年は中学年がないので低学年をととても可愛がってくれるし、思いやりもあるのですが、リーダー性を發揮するということは少し心配かなという感じがします。また、今の低学年は2年生だけですが、中学年がないため、来年自分たちがどうなっていくのかというイメージが持ちづらいなと思います。勉強を教えるのには問題ありませんが、学校はそれだけではなく集団生活や日々の生活の中で体験することで学んでいくことも多く、人数が少ない、いない学年があるということが心配です。また、人間関係でちょっと気が合わなかったり、喧嘩してしまったときなど、その子と気まづくなったら他の子と仲良くできるとか、他に逃げ場がないわけです。実際にはそうした心配はなく、5、6年生は今の状態がとても心地よいと感じているのではないのでしょうか。逆にこの状態から出た時、先を見たときに、大きな集団の中で耐える力とか人間関係を作る力が大丈夫かなと心配になっています。

(委員) 入広瀬村時代に一つのグラウンドで、幼小中の子どもたちが取組んでいたスクラム教育を間近で見してきました。地域に学校があるということの良さはわかりますし、幼小中の子どもたちが間近に成長モデルがいてくれる良さ、賑わいを作ることの良さもあると思います。15年くらい前に入広瀬中学校に進学する子と守門中学校に学区外就学する子が半々に分かれたことがありました。あのとき感じたのが、どういう結果であれ親御さん同士がきちんと話をすることが大切だと感じました。仕事の関係で歴史について調べていますが、魚沼は城下町でなく殿様がいたわけではないので、会津藩から役人が来た時に農民は平伏せずに立ったまま話をしたそうです。自分たちのことは自分たちで議論する民主的な慣習が江戸時代からあったわけです。地域の皆さんがじっくり話し合えばどういう結論が出て大丈夫だろうと思います。学校評議員として活動していますが、両地域とも非常に良い雰囲気の良い学校ですので、私はあまり心配しておりません。

(委員長) 個人的には少人数のメリットの方が大きいと感じています。またとない機会というか、こんな少人数での学校生活の経験を積める子どもたちはいないのではと考えていました。私の子は、自分の小学校時代と同じ経験はできないが、逆に自分が体験できなかったことを体験していると感じています。大人が目線で語ってしまうと、自分たちの時代と比較してしまうので、今の子どもたちはかわいそうだという意見になってしまう。個人的には少ないなりにメリットは大きいと思っていたので、そういう親御さんも多少はいるのかと思っていました。しかし、保護者の間には少人数のメリットよりも、これ以上減ったら成り立たないという不安感の方が強いということを感じました。これから入学してくる子どもたちのことを考えたらずいよねという意見が多数を占めておりました。話し合うのが遅すぎたのかもしれませんが、これらが保護者アンケートの結果にも表れたのではないかと思います。保護者の間では、今のままで進むメリットよりも不安感が強いと感じられました。こども園の雰囲気はどうですか。

(委員) 個人的な意見としては今、こども園に通っていて将来的に魚沼北中に通うことになりませんが、その間を入広瀬小学校に通わせるのはかわいそうだなと思っています。せっかくこども園でできた友達とお別れして、また中学校で一緒になるわけで、人間関係を一から築いていかなければならないだろうし、私自身も中学校から高校へ行くときに人数が一気に増えたので、人間関係に酔ってしまって1週間ご飯が食べられなかった経験をしました。できるだけ多くの人と触れ合える人数の多い学校に通わせたいという思いがあります。

(委員長) これから入学を控える保護者の何人かに話を聞いたところ、同じような言葉が聞かれました。ただ、地域コミュニティの核という学校の持つ一面も見逃せない部分でもあります。コミュニティスクールも本格的な動きに向かっていく中で、入広瀬地域が統合によってどういう立ち振る舞いをしていくのかということも気になります。そうした部分もこの委員会で検討していければ良いと思います。

(副委員長) アンケートの中に「1人でも存続するのか」という回答があります。もし、大半の児童が学区外を希望して入広瀬小学校に1人だけ残った場合、通学手段はどうなりますか。

(課長) 入広瀬小学校が存続すれば、須原小学校は学区外就学となり、保護者送迎が原則となります。しかし、それをそのままとするわけにはいかないと考えています。また、一方で、須原小学校にスクールバスは出せないの入広瀬小学校に通学してくださいというアナウンスも厳しいと思っています。

(教育長) 今後の児童数の推移を見た時に、令和5年度に入学予定者が全員入広瀬小学校に入ってくれば全校で6人なわけです。この6人のうち5人が学区外就学を希望した場合、1人でも残れば入広瀬小学校は存続します。学校がある限り入学することは可能です。学区外に行った子どもたちは今の規定では保護者送迎が基本となりますが今、課長が言ったようにそのまま放置するわけにはいかないと思いますので、何らかの通学手段を検討せざるを得ないと思います。私どもが心配しているのは、学級減によるスタッフの減少です。今年度は5、6年生が複式学級となっていて、この学級には担任が1人しかいないわけです。5年生と6年生の内容を同時に1人で教えていて、担任にとっても子どもたちにとっても大変な状況です。2年生は独立して1学級あり、特別支援学級は県が認めて1学級として成立していて合計3学級が存在しています。ところが特別支援学級の設置についてはだんだん厳しくなっていて、子どもが1人だけだと学級として成立させないという状況になりつつあるように感じています。特別支援学級が1人学級なので成立しないということになると、きっと2年生と一緒に1学級となります。もう少し将来に進めてみると5、6年が卒業した後の令和5年度は、予定している子が全員入学した場合、1学年が2人、2学年が1人なのでこれを合わせても3人となり、ここで1学級となります。4学年の3人が1学級、特別支援が1学級と認められれば今と同じ3学級になりますが、認められなければ2学級ということになります。県の人事異動基準では、児童数に応じた学級編成を行い、学級数に応じて教員の配当数が決まってきます。全校で1学級だと2人、校長と担任1人ですね。2学級だと3人、3学級だと5人というのが基準です。養護教諭は3学級以上でないと配置なしです。事務職員は4学級以上で1人配置されます。一応の基準はありますが、佐渡市、十日町市などでは少ない学級でも例外的に養教が配置されているところもあります。全県的な人事配置の調整の中で余裕があれば配置され、余裕がなければ基準どおりとなる場合もあります。2、3学級の小規模な学校は教員環境という点でも、複式がでるという時点でかなり厳しい環境になります。ただ先ほど川瀬校長が言われたように、ひとり一人が良く見れるというのはメリットなので、入広瀬小学校の学力は高い水準にあります。そういう良さはあると思います。スクールバスも国が示している基準では、片道4km以上で出すことになっています。魚沼市の場合は2.5kmでバスを出しております。通学時間については1時間までは許容範囲だと国は言っています。大白川から須原までどのくらいかかりますか。

(委員) 直行すれば20分くらいですが、横根を経由すると40分くらいかかると思います。

(委員) 個人的な意見としては、少ない人数の良いところはあるかもしれないが、たくさん的人数のところでもできるような体制が、子どもにとっても今後にとっても一番良いのではないかと思います。確かに入広瀬の子どもたちは今まで少ない人数の中でやってきて、急に多い人数の中に入ると本当にご飯も食べられなかったり、マンツーマンに近い形だったものが、人数が多くなると先生もそこまで面倒を見られないので、その辺のギャップが子どもたちにあるということをも自分も子どもたちを見ていて感じたところです。子どもにとってどういうのが望ましいか、親の考えも当然あります。そういった考えを良い方向にもってってもらえればよいのかなと思います。

(委員) 地域としては学校がなくなると寂しい思いがあります。魚沼北中に統合されたとき、グラウンドに子どもたちの姿が見えなくなりました。小学生がグラウンドで遊ぶ姿もほぼ見られません。子どもたちの姿を見て元気ももらっていたのですが、そういうのがなくなってすごく寂しい思いをしています。でも親御さんや子どもたちにとって将来どのようにしたらベストなのかと思うと、やはり少しでも大勢の環境の中で育つのが一番良いのではないかと思います。少人数のメリットはたくさんある

のかもしれませんが、守門ってそんなに遠い場所ではないです。車で10分なんて大したことないですし、入広瀬も守門も同じ地域なんだと考えを改める必要があると思います。その代わり魚沼北中で体育祭があれば皆さんで応援に行ったりするとか、小学校もそうなったら何らかの形で地域の人も関わることができると思います。子どもたちのためにはこのままではいけないのではないかと考えています。

(委員) アンケート調査を見ると統合した方が良いとの結果が出ています。入広瀬から学校がなくなることについては非常に残念な思いを誰しも持っていると思いますが、時代の流れで仕方がない、皆が諦めの境地に至っているという結果がアンケートに出ていると思います。それを無理やり数人がどうしても残すんだということになりますと、親御さん同士に軋轢が生じ、長く尾を引く形になります。守門との統合がベターであると思います。

(教育長) 先ほど委員長が触れたコミュニティスクールについてお話ししたいと思います。魚沼市では来年度から全ての小中学校をコミュニティスクールという制度で運営する予定です。コミュニティスクールとは学校運営に地域の皆さんが参画していくという制度です。これまでも学校評議員のみなさんからご意見をいただきながら、その声を学校運営に反映させていたんですが、コミュニティスクールというのは法的に校長や学校職員の内部だけで学校運営について決められなくなります。学校運営協議会という会議を持って、そこに地域の皆さんから委員で参加してもらい、そこが決定機関になります。校長が提出する運営方針について運営協議会で承認してもらわないと先に進めないという仕組みになります。学校運営協議会委員の皆さんは特別職の公務員という立場になり、報酬も支払われません。今までも学校は地域の声をとり入れてきていましたが、それが法的に定められた制度として導入されることとなります。仮に入広瀬小学校が須原小学校に統合された場合は、須原小学校の学区は守門と入広瀬全部の地域になってきますから当然、委員の選出も両方の地域からバランスよく選出することとなります。入広瀬地区としてはこれまで取り組んできた子育ての取り組みを大事にしてもらいたいんだとか、こういう地域行事があるから学校行事とぶつからないようにとか、地域行事を学校行事に取り入れてやってもらいたいなどの意見を学校運営協議会の場に出せますし、学校側もそういうことを配慮しながら運営していくことになるとと思います。地域の声が学校教育活動に反映されて行く仕組みだということを理解していただければよいかなと思います。

(委員) 順調に話が進んでいった場合は、令和4年度は無理としても、令和5年度には統合できる状態なのでしょうか。

(教育長) 児童数の推移などからも、令和4年度末のタイミングで閉校することが現実的ではないかと思います。統合の時期については、この検討委員会で検討していただければと思っています。仮に統合という方向になったときには、閉校に向けた準備や手続きが必要になってきます。準備日程も考慮して、いつ頃が良いのか検討いただきたい。人事の面からは、閉校が決まると手続きや閉校に向けた活動などが必要になるため、教員が1人加配になります。来年度の人事異動に反映させるためには11月くらいまでに方向を出せれば、加配が確実に配置されることとなります。そういう日程も考えながら11月くらいまでに方向性を出せればと考えています。加えて市の予算編成もそのころですので、特別に予算も必要になってきますし、もし令和4年度末までに閉校するのであれば、今年の11月くらいまでにその方向で手続きを進めていった方がスムーズだろうなと思います。1年先送りにするのであれば、今言った作業は来年度に実施することとなります。

(委員) ここで仮に方向性がまとまったら、提言はどこに上げることになるのか。

(局長) 今日の会議は、設置要綱がまだ案の段階で準備会的な位置づけとなります。正式に準備委員会が発足した後、「今後の入広瀬小学校について」という内容で教育委員会から諮問が出され、その諮問に対して答申を出すことになります。どこまで詳細に答申することになるかはこれから検討することとなるかと思いますが、それくらいの重みをもった委員会にしたいというのが我々の思いです。最終的には条例改正の議決が必要となりますので、市が責任を持つことになるわけですが、その前段の地域の各層、保護者のおおよその意見がまとまっているところを答申という形で表していただきたい。急がせるわけではありませんが、来年度の予算や人事に反映させることができるのであればそれに間に合わせたいということです。

(教育長) 検討委員会からの提言に基づいて教育委員会の方針を出し、地域に説明していかなければと思います。令和4年度末での閉校は急すぎるということであれば1年延ばしても教育委員会としてはそのように対応します。その辺の時期についても検討いただければと思います。

(委員) 地域も大事ですが保護者への説明もお願いします。

(教育長) そうですね。

(局長) 保護者と地域にはこの検討委員会の前にそれぞれ説明を行っており、この検討委員会が初めてというわけではありません。今後、方向性が固まるなどそれぞれの段階に応じて教育委員会が説明に出向くということになるかと思っています。

(副委員長) 保護者の気持ちはまとまっているのでしょうか。

(委員) 私の子は1人目なのですが、他の保護者は上の兄姉がいたり環境が違うので考え方が違うのかもしれません。

(委員) 今の2年生は入広瀬小学校を無くさないために親同士で相談して入学を決めたという話を聞いたのですが、その辺はどうでしょうか。

(委員長) 今の2年生の保護者については、上の学年に兄姉が在籍しているので入広瀬小学校を選んだという状況のようです。ただ、このうち1人は長男で下に妹がいる状況です。下の妹はこども園でコミュニティを築いていて保護者は須原小に行かせることも考えているようで、上の子と離れ離れになることに不安があるようです。保護者としては、そういうことで悩みたくないという思いがあるようです。

(委員) 早めに結論を出してあげることがいろんな人にとって助かる事なのではないかと思いました。この秋に結論を出していくべきだと感じました。

## **(2) 今後の進め方について**

(課長) (資料に基づき説明)

(課長) この委員会の審議については各方面から注目されております。会議を傍聴したいという意見も寄せられているところですので、会議の傍聴を認めるどうかお諮りします。

(審議の結果、会議の傍聴を認めることとした。)

## **(3) その他**

(意見、質問、連絡事項特になし)

(委員長) 委員の皆さんから何かありますか。特に無いようでしたら6の意見交換を終了いたします。

ここまでの進行を任されておりましたので、これ以降は事務局の方へ進行をお返します。円滑な議事進行にご協力いただき、どうもありがとうございました。

## **7 その他**



(事務局) 梅井委員長、ありがとうございました。その他について、何かありますでしょうか。

(森山課長より、委員の処遇について説明あり)

(事務局) 他にございませんでしょうか。

(特になし)

## 閉 会

(事務局) 最後に吉澤事務局長より、閉会のご挨拶を申し上げます。

(局長) 長時間ありがとうございました。委員会の位置づけにつきましては、これから正式に発足となる旨の説明を申し上げましたが、本日の会議で核心に迫るところまでご意見をいただいたのかなと思います。次回以降はさらに具体的に、なおかつスケジュールについてもご検討いただければと思います。これから短期間に複数の会議となりますがよろしく願いいたします。

(事務局) 以上で検討委員会を終了とします。ありがとうございました。

【午後 8 時 40 分 閉会】